

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 26 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531002

研究課題名(和文) 探究的・協同的な学びに基づく学校文化の創造と教師の実践的力量形成に関する史的考察

研究課題名(英文) A Retrospective Study on the Creation of School Culture Based on Inquisitive and Cooperative Learning and the Development of Teachers' Practical Competences

研究代表者

中野 真志 (NAKANO, Shinji)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：90314062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、デューイ実験学校の具体的な実践事例を考察することにより、探究的・協同的な学びがカリキュラムのすべての領域で機能していたことを明らかにした。子どもの探究的・協同的な学びを実現するためには、まず、教師が探究的・協同的でなければならない。実験学校では教師の知的自由と知的責任に基づいた協同を保障する環境が整えられ、それが学校の文化となっていた。教師の知的自由と知的活動を尊重するとともに、自らの教育活動について観察、洞察、反省する精神的習慣を形成すること、知的責任が教師に求められた。つまり、教師の実践的力量形成には知的自由と知的責任に基づく探究的・協同的な学びが不可欠であると言える。

研究成果の概要(英文)：In this research, the author makes clear that inquisitive and cooperative learning by children functions throughout all areas of the curriculum through the consideration of concrete lesson practices at Dewey's Laboratory School. Teachers must first take an inquisitive and cooperative approach to actualize such learning by children. An environment was thus created which assured cooperation based on intellectual freedom and responsibility of the teachers at the school, which then became the overall culture of the school. Not only were the intellectual freedom and activities of teachers respected at the school, but teachers were also expected to carry out observation, insight, and reflection regarding their own educational activities as a mental habit, i.e. to have intellectual responsibility. In conclusion, inquisitive and cooperative learning which was based on intellectual freedom and responsibility was absolutely necessary for the development of teachers' practical competences.

研究分野：生活科及び総合的学習の理論と実践、カリキュラム論、デューイ教育論

キーワード：探究 協同 デューイ デューイ実験学校 知的自由 知的責任 教師の実践的力量

1. 研究開始当初の背景

筆者は、これまでデューイが唯一、実際にカリキュラム開発に携わったシカゴ大学附属実験学校(デューイ実験学校)に研究の焦点を合わせ、そのカリキュラムの基礎理論の形成過程及び授業実践について考察してきた。また、デューイ実験学校におけるカリキュラム理論とそこでの授業実践に関する研究が、今日の我が国における「生活科」と「総合的な学習の時間」の理論と実践にとっても価値があり、意義があることを主張してきた。

また、科学研究費補助金(基盤研究(C))の助成を受け、「生活科及び総合的な学習における教師の実践的力量的形成のための研修プログラムの開発」(平成19年度～平成21年度)という研究を行った。その際、これまでのデューイ実験学校に関する研究成果を活用したいと考え、デューイ実験学校の管理と監督について考察し、それを論文としてまとめた。その中でデューイ実験学校の運営、教師を中心とした協同的なカリキュラム開発において、教師に明確な任務と期待を与えることが彼らを束縛するのではないこと、さらに良い授業にとって決定的な条件は、教師たちが十分に尊敬され、素直に意見交換ができる環境を整えること、また教師自らが考え実験する機会を提供することが重要であることが明かとなった。それゆえ、「探究的・協同な学びに基づく学校文化の創造」と「教師の実践的力量的形成」に関する史的考察が、「教職の専門性」の観点からも現代的な意義と価値を十分にもつと考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「探究的・協同な学びに基づく学校文化の創造」と「教師の実践的力量的形成」に関する史的考察である。その際、デューイ実験学校の教育理論とカリキュラムに着目し、当時の公立学校システム、教育理論及び教育実践の歴史的文脈や状況を視野に入れながら、この実験学校のカリキュラム開発、教員の管理と監督、授業実践の実態に関する考察を踏まえ、「探究的・協同な学びに基づく学校文化の創造」と「教師の実践的力量的形成」への方策と方途を明らかにしたい。考察の観点としては、子どもの探究的・協同な学び、教師による協同的なカリキュラム開発、知的自由と責任に基づく協同等を設定している。

3. 研究の方法

国内外のデューイ実験学校、デューイ及びE.F.ヤングに関する研究資料の情報を入手しながら、関連する著書と論文、先行研究等の資料を収集・整理し、考察する。その際、インターネット、図書館の相互貸出、文献複写依頼を活用する。また、本研究の現代的な意

義という視点から、「教職の専門性」、「教師の実践的力量的形成」、「カリキュラムマネジメント」等に関する文献を適宜購入し、それらを参考資料とする。さらに、シカゴ大学、コーネル大学等の図書館にて研究に関する新たな資料を発掘し収集する。具体的には、『初等学校教師』(*The Elementary School Teacher*)の諸論文、シカゴ大学でのヤングの「講師報告」、デューイ実験学校の教師による「活動報告書」、元教師であったK.C.メイヒューが収集した資料「メイヒュー・ペーパーズ」等である。そして、発掘・収集した研究資料の分析と考察を行う。その成果を学会で発表し、論文としてまとめる。

4. 研究成果

平成24年度の研究成果として、アメリカ教育学会第24回大会で自由研究発表を行った。発表テーマは「ジョン・デューイの教師教育構想」である。その発表ではデューイの教師教育構想の中心が、一人の個人としての教師の知的自由と知的活動への尊敬にあることを明らかにした。当時、他のほとんどの学校では教師たちへの厳密な管理システムが支配的であったが、デューイは、教師たちが自分の教育活動を個人的に協同的に反省し、それに応じて修正し改善することを当然のこととして認めていた。なぜなら、民主的で協同的な教師の組織が教師たちの知的活動を促進したからであった。

しかし、知的自由の中心には知的責任が必要であり、教職の専門性への準備は知的責任の習慣を育てることを含まなければならない。すなわち、教師が教育について思慮深い機敏な研究者となるためには、題材に関する知識が豊富であり、教育の心理学的、倫理学的原理に基づいて、自らの教育活動を観察、洞察、反省することが精神的習慣として形成されなければならないのであった。学校における探究的・協同的な学校文化の創造には、知的自由と知的責任に基づく探究と協同が重要であることを明らかにした。

この他に、アメリカの協力学習法との比較を通して、生活科と総合的な学習における協同的な学びの特質について検討し、論文としてまとめた。

平成25年度の研究成果として、(1)日本デューイ学会の第57回研究大会シンポジウムにおいて、「デューイ実験学校における統合的なカリキュラムの開発」という題目で提案を行い、そのカリキュラム開発において、実験学校では探究的・協同的な学びの文化が創造されていたことを明らかにした。なぜなら、この学校が目指していた、自律的に責任ある態度と行動に導くような経験を子どもたちに与えようとするならば、まず教師たちが民主的で参加的な方法でお互いに、また、監督者たちと協同すべきであったからだ。そして、それはシカゴ大学の教師や保護者との連携

により後援され保障されていた。言い換えれば、この学校では探究的・協同的な学びの文化が子どもやその学校の教師たちだけでなく、保護者とシカゴ大学の教師たちを巻き込みながら、拡大されていったといえる。

次に、(2)「ジョン・デューイの教師教育構想 - 『教育の理論と実践の関係』を中心に - 」及び(3)「レスター・ウォードとジョン・デューイ - 『目的にかなう進歩』と『反省的な思考』 - 」という論文を作成した。

(2)では、デューイ実験学校の具体的な教育実践を視野に入れながら、「知的自由」と「知的責任」という概念に焦点を合わせ、デューイの提起した「実験室的な着想」、「知的方法の統制」の意味を検討し、デューイの教師教育構想について考察した。

(3)では、ウォードの教育理論の生物学的側面について考察し、彼の研究がデューイの教育哲学と教育学にどのような影響を与えたのか、またデューイがそれをどのように発展させたかについて考察し、それが実験学校のカリキュラムや授業でどのように具体化されたのかを明らかにした。デューイは、カリキュラムに関するウォードの一般的なアイデア、すなわち、自然的・社会的な諸力の合目的利用の概念を学校教育で利用できるよう「反省的な思考」として発展させたのであった。それは社会的な問題解決を通して社会的な力と洞察力を形成する一つの道具であった。すなわち、デューイは、知性が問題解決の一つの方法であり、進歩は知性の方法を通して達成されると信じていた。そして、一つの小型の民主的な共同体としての学校が、知性の方法をすべての種類の諸問題に応用することを子どもが学ぶよう支援する時に、この学習は必然的に社会的進歩へと導くと考えたのであった。

この他、現在の日本における探究的・協同的な学びについて、生活科と総合的な学習の理論と実践を中心に研究を行い、その成果を共編著の著書である『探究的・協同的な学びをつくる - 生活科・総合的な学習の理論と実践 - 』にまとめた。

平成26年度の研究成果として、(1)昨年度の日本デューイ学会第57回研究大会シンポジウムにおいて提案した内容を「デューイ実験学校の統合的なカリキュラム - 当時のアメリカ・カリキュラム論の文脈からの一考察 - 」という小論にまとめた。デューイ実験学校のカリキュラム、オキュペーションの理論と実践は、総合的な学習に対する伝統的な教科、子どもの自主性に対する教師の指導性、自由に対する管理という狭間で揺れ動く現在の日本の教育改革及び教育の理論と実践にとって示唆に富むように思われる。この論文は『日本デューイ学会紀要』第55号に掲載された。

(2)日本デューイ学会第58回大会において個人研究発表を行った。そのテーマは「デューイ実験学校における探究的な学習」である。

この発表では、デューイ実験学校では探究的な学習がカリキュラムのすべての領域で機能し、それが協同的な学習であったことを具体的な実践事例の分析・考察を通して明らかにした。さらに、実験学校の教師たちも探究的・協同的であり、そのような学校の組織と環境が整備され保障されていたことについて検討した。

(3)現在の日本における探究的・協同的な学びに関して、本研究の成果を踏まえながら、『初等教育資料』(2014年8月号)で「探究のプロセスの質を高める協同的な学習」というテーマで論説を書いた。

上述のような研究成果を大学、大学院の授業、現職教員の研修等で利用してきたが、今後も活用するために最終的に報告書にまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

中野真志、デューイ実験学校の統合的なカリキュラム - 当時のアメリカ・カリキュラム論の文脈からの一考察 - 、日本デューイ学会紀要、査読有、第55号、2014、145-154

中野真志、探究のプロセスの質を高める協同的な学習、初等教育資料、査読無、8月号、2014、22-25

中野真志、レスター・ウォードとジョン・デューイ - 「目的にかなう進歩」と「反省的な思考」 - 、愛知教育大学教育創造開発機構紀要、査読有、第4号、2014、79-86

<http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/bitstream/10424/5646/1/kiko47986.pdf>

中野真志、ジョン・デューイ(John Dewey)の教師教育構想 - 「教育の理論と実践の関係」(The Relation of Theory to Practice in Education)を中心に、愛知教育大学(教育学編) 査読無、第63輯、2014、21-18

<http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/bitstream/10424/5417/1/kenkyo632128.pdf>

中野真志・山田泰弘、生活科と総合的な学習における協同的な学びについての研究 - アメリカの協力学習法(Learning Together)との比較を通して - 、愛知教育大学(教育学編) 査読無、第62輯、2013、11-18

<http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/bitstream/10424/5043/1/kenkyo621118.pdf>

〔学会発表〕(計3件)

中野真志、デューイ実験学校における探究的な学習、日本デューイ学会第58回大会、2014年10月5日、同志社大学(京都府)

中野真志、デューイ実験学校における統合的なカリキュラム開発、日本デューイ学会第

57 回大会、2013 年 9 月 21 日、新潟青陵大学
(新潟県)

中野真志、ジョン・デューイ(John Dewey)
の教師教育構想、アメリカ教育学会第 24 回
大会、2012 年 10 月 13 日、九州大学(福岡県)

〔図書〕(計 1 件)

中野真志他、三恵社、探究的・協同的な学
びをつくる - 生活科・総合的学習の理論と実
践 -、2013、226

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中野 真志 (NAKANO, Shinji)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：90314062

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：